

平成30年度 第2回 石岡市りんりんタウン構想推進委員会 会議録

1 日 時 平成30年9月27日(木) 午後1時30分～午後3時30分

2 場 所 石岡市役所本館1階 大会議室

3 出席者 委員14人中11人

4 会議内容

(1) 開 会

(2) 挨 拶

(3) 議 事

① 自転車利用環境の現状

② 自転車活用状況調査のとりまとめ

【事務局】 資料1と資料2に基づいて説明

【会 長】 通行目的別死傷者数のグラフの傾向(資料1の7ページ)は、他地域と異なることが興味深い。一般的に高校生の事故が多い傾向にあるが、石岡市では中学生の方が多いのではなぜか。まだスピードの遅い小中学生のうちに小さな事故を起こしている方が危機感を覚え、大事故発生の予防となるため良い傾向である。

【委 員】 中学生は自転車通学が多く、高校生は車での送迎が多いのではないかと。

【委 員】 アンケートでは、高校生のうち自転車を利用する割合は高かった。

【会 長】 アンケートでは、高校生の保険加入率は高いようだ。

【委 員】 TSマークと間違えて回答しているのではないかと。中学校では毎年更新することを指示しているため、習慣化している可能性もある。

【事務局】 アンケートでは、個人賠償保険も含めて回答をいただいている状況です。

【委 員】 警視庁の自転車対歩行者の死傷事故時における運転者の年齢層・損害賠償

責任保険等の加入状況の調査によると、19歳以下の加入率は71%である。

【会 長】 サイクリストアンケートの結果では、9割がリピーターであり、高いのはなぜか。

【委 員】 つくば方面からの訪問客が、ヒルクライムの練習等の拠点としているためではないか。

【委 員】 地元の自転車利用者は恋瀬川を活用しているのか。

【委 員】 地元の人は恋瀬川沿道を歩く程度であり、自転車を利用する人は少ない。

【委 員】 恋瀬川沿道は、拡張できないのであれば自転車利用者が増えると思われないため、整備する必要はないのではないか。

【委 員】 恋瀬川の幅員は狭いからすれ違うことができないことから、出会いがあり恋が実するという印象を与えられるのではないか。

市民アンケートの間24において、歩道を自転車で走って良いと想像させる項目内容は避けてほしかった。「走行」と「通行」の使い方も注意が必要である。

③ 課題の整理と構想の柱立て（案）等

【事務局】 資料3に基づいて説明

【委 員】 柱立て（案）におけるサイクルステーションとサポートステーションはどのような設備を想定しているのか。サイクルステーションは新たに整備する予定なのか。

【事務局】 サイクルステーションはシャワーや着替えができる設備を整える予定であり、既存施設の利用と新設どちらもの整備を検討しています。サポートステーションはラックの配置など、気軽に休憩等で立ち寄ることが場所を想定しています。

【会 長】 全ての柱立て（案）を実施することは難しいのではないか。優先順位を付けて1つずつ着実に進めるべきと考えるが、事務局は柱立て（案）に優先順位を想定しているのか。

【事務局】 着手時期を短期としている実施施策（案）が、優先的に取り組みたい事業として考えている。

【委員】 交通ルール及び自転車保険の普及における「民間企業との連携」では、交通事業者や警察と協力して交通ルールの周知とともに、モデル企業の設定等に取り組むのか。

【事務局】 その通りです。

【委員】 市の職員で自転車通勤をしている人は、どの程度の割合か。名古屋市では自動車通勤より自転車通勤の人に交通手当を多く支給している。そのような取り組みを参考に、市職員が先行して、交通マナーを徹底しながら自転車を利用する等により、自転車利用をPRしてはどうか。

【会長】 名古屋市の事例は、自動車の通勤手当を減らし、自転車の通勤手当を増やしているため、交通費の補助全体で見ると総額は変更していない。

【事務局】 自転車で通勤する市職員の正確な人数は把握できていませんが、新庁舎にはシャワー室を完備する等、職員及び一般の方にも利用していただける仕様となっています。

【委員】 自動車免許返納者の自転車運転は危険であるため、公共交通との連携強化において、自転車による免許返納者に対する支援は見直してほしい。

【委員】 交通ルールブックは作成が目的とならないように進めてほしい。横浜市でも同様の冊子を作成したが利用されていない。ルールを明文化することは大切だが、誰でも認知できるよう、例えば幼少期に親子で習得できるような安全教育に活用してほしい。

【事務局】 ルールブックの作成が目的化しないように、進めます。安全教育については学んだ後に習得する取組を行っているが、小学生のみ実施しています。ご意見いただいたように、幼稚園生等へも啓発できるよう、構想策定において検討します。

【会長】 安全な走行環境の整備で矢羽・注意喚起標示の設置を短期の着手としてい

るが、範囲が広いと、整備が間に合うか懸念している。自転車のモデルレーンは、どこに設定する予定か。

【事務局】 着手時期を短期としている実施施策（案）が、優先的に取り組みたい事業となります。自転車のモデルレーン整備は、短期（3年間）に実施としていますが、全て3年以内に整備することは難しい状況です。事務局では、フルーツラインと通学路をモデルレーンとして想定しています。

【会長】 恋瀬川サイクリングコースはモデルレーンにならないのか。一部の狭い幅員の区間では、「恋が実る」等の物語があって良いが、他の部分は拡幅整備が可能であるか。

【事務局】 恋瀬川はかすみがうら市等と広域で管理しています。また、サイクリングコース部分は川の堤防であるため、拡幅することは難しい状況です。

【委員】 恋瀬川サイクリングコースは、つくば霞ヶ浦りんりんロードとつながっているのか。

【事務局】 一部の橋を工事しているが、つくば霞ヶ浦りんりんロードとつながることが理想です。恋瀬川サイクリングコースの北端は、八郷総合支所までとなっています。

【委員】 恋瀬川を活用した自転車コースについて、「恋瀬川りんりん物語」という呼び名はやめた方が良いのではないか。

【委員】 参考資料「恋瀬川サイクリングコースの有効活用について」に示されている場所は、市内を数十年走っているが、行ったことがない。まずは知名度の高い県が行う霞ヶ浦りんりんロードとつなげることが重要ではないか。

【委員】 参考資料「恋瀬川サイクリングコースの有効活用について」に示される源流①や②に行く道のりは、ハードではないか。

【委員】 源流①の鳴滝は、同じ道を往復するコースとなる。桜の名所であり、どちらかというと歩く人が多いハイキングコースに適しているのではないか。市内を自転車でまわる方には良いコースだろう。

- 【委員】 今までのターゲットと異なる人を呼び込むのであれば、源流のコースは良いだろう。ただ、石岡駅から周遊できるなどのどこか帰り着くコース設定でなければ提案しにくいと考える。
- 【会長】 ヒルクライムコースをどう活かすかも一つの手段だが、朝日トンネル方面にある朝日峠周辺は自転車道として活用できる可能性もある。また、上曾トンネルも活用できるかもしれない。どこを重要なサイクリングコースとして設定するのが良いか、ご意見をいただきたい。
- 【委員】 大きく分けて、つくば霞ヶ浦りんりんロードと八郷のヒルクライムやフルーツラインを活かす2つの方向があると考え。現在歩いているような道を、自転車で通行しやすくしてはどうか。個々のメリット・デメリットを抽出し、ワーキンググループなどで比較検討してはどうか。
- 【委員】 現状では、まちにお金が落ちていない。まちとしてどのような人を呼び込みたいのか、という視点が大切ではないか。
- 【委員】 現状でサイクリストを受け入れている店舗もあるが全ての店ではない。
- 【委員】 筑波山を望むスポットをサイクリストにPRしてはどうか。
- 【会長】 しまなみ海道にも多数の地点にヒト型ラックが配置され、訪問者は自転車を停めて写真を撮り、日が暮れて空腹になり、何か食べ物を買って留まるといった購買力が生じるよう、上手な仕組みを作っている。
- 【委員】 霞ヶ浦大橋の道の駅に訪れている多くの人を、石岡市に取り込まない手はないが、現状ではまちに誘導する道がない。サイクリングコースとして、このような霞ヶ浦周辺のサイクリストが市に訪れるような道が必要である。具体的には、高浜周辺を整備し、霞ヶ浦から恋瀬川まで通行できると良い。
- 【委員】 私は東京からのサイクリストに愛郷橋付近のセブンイレブンから消防署を通り、五輪堂橋といったコースを案内しているが、道路に一貫性がないと感じている。霞ヶ浦沿道は頭を使わずスピードを出して走れるコースであるが、恋瀬川沿道等はスピードを出すことができるコースではなく、頭を使ってコースを選定しなければならない。霞ヶ浦沿道と恋瀬川沿道を走行するサイクリストは、タイプが異なるのではないか。

【委員】 川はゆったり走る人を呼び込み、お金を落としてもらうのが良いのではないか。ネーミングの良い「恋瀬川」を資源として有しているため、ぜひ活用してほしいと考える。「願いがかなう石岡市！」など魅力的なキャッチフレーズがあると、女性も訪れたいくなるのではないか。まちにお金が落ちないと、地元の賛同を得ることは難しいと考える。

【委員】 市には、恋瀬姫というマスコットキャラクターもいる。

【会長】 これだけ意見が多く出るということは、資源が豊富にあるためである。サイクリングコースの設定は、市でワーキンググループを作って練り直してはどうか。

「観光振興における自転車活用」について意見を多くいただいているが、「暮らしの中の自転車環境の整備」についてのご意見はいかがか。

【委員】 柱立て（案）の「スポーツ振興・青少年育成」の実施策（案）の公園等の有効活用の促進は、どのような内容か。

【事務局】 公園等の有効活用として、ひたちなか市の国営ひたち海浜公園におけるBMX（バイシクルモトクロス）コースを参考としました。市にも運動公園等があるため、自転車利用環境として活用したいと考えています。

【委員】 石岡駅から旧四箇村駅を結ぶバスの専用道路（BRT）は、休日の午前中など期間を設けてサイクリストに開放してはどうか。親子向けの教育の場にもなるかもしれない。

【委員】 南台付近から望む筑波山はきれいである。

【会長】 BRTの利用は面白いのではないか。

【会長】 「暮らしの中の自転車環境の整備」の目的はどのようなことかと言うことを再度、市として明確にした方が良い。事故削減やエコ、健康等、様々なことが考えられる。なぜ自動車ではなく、自転車の利用を推進するのか。

【委員】 近年、家族で訪れる場所は大型ショッピングセンターなど駐車場がある拠点ばかりであり、駐車場が少ないまちなかには行かなくなっている。自転車

の利用を推進することで目的地の選択肢が増えて、シャッター商店街となっている仲通り沿いの店舗が潤うことを目的にしてはどうか。

【会 長】 ドイツのハノーバーでは、中心市街地において車両の進入を禁止したことで、中心市街地が賑わい、自転車利用も増えた。シャッター商店街の活性化も可能ではないか。

【委 員】 自転車に乗ってもらうために、何が一番市民に響くのか。一般的には健康のため、カロリー消化が目に見える等の取組が効果的である。会社は自転車通勤を禁止していないのか。

【会 長】 自転車通勤を禁止しているのは東京の会社が多いのではないか。自動車の交通量が多いため、労働災害の補償が懸念となっている。

【委 員】 6～7割が自動車通勤であるためモデル企業等を設定し、そのうち5%の人が自転車通勤になれば、変化が生まれるのではないか。

【委 員】 市の柱立て（案）の大前提は、国の自転車活用推進計画である。国における4つの目標を参考に、2つの大きな目標に集約するとともに柱立て（案）として整理した。「暮らしの中の自転車環境の整備」では何から着手するかについて、庁内で答えがまだ出ていない状況である。しかし、「健康であると良いことがある」、と目に見えることが一番と考える。都市環境の形成という国の目標は、既に車社会であるため石岡市だけで変えていくことは難しいと考える。パークアンドライドの実施も難しいと感じている。健康の取組についてはデータ収集が必要であり、市民皆さんの協力を得ながら社会実験を行っていく取組等を考えている。市民の皆さんの意見を伺いたい。

【委 員】 多くの方は「痩せる」等、自分の努力が返ってくることが嬉しいのではないか。自転車を利用するメリットを示すことが大切である。

【会 長】 筑波大学はスポーツ科学の最先端の研究を行っているため、連携等ができると良い。

【委 員】 筑波大学と協力してコースに市内外の人に、筋レンズを付けて走ってもらう取組も良いのではないか。ヘルメットも企業単位で自転車を購入すると割引されるといった取組も良いだろう。和歌山県では花王とシマノと連携した

自転車に関する取組があり、身体より先に精神に良い効果が出たという事例がある。

【委員】 石岡市と同様のスケジュールで県も自転車活用推進計画を策定している状況です。全ての施策を市で実施することは大変であるため、県と市町村で上手く役割分担できると良い。健康を目的としたデータ収集等は県が実施することも可能である。観光振興に係る施策は、地元で詳しい市町村で行うことが良いだろう。県と石岡市ですり合わせながら、計画を策定していきたい。

【委員】 ネットワーク計画を早めに検討してほしい。水戸市の場合、水戸駅から高校生が多く通行する路線を重視して計画していた。ほぼ車道混在の整備である。安全のために、まず通学路をモデルレーンとして整備してはどうか。国道6号をネットワークに含む場合、国へのヒアリングが必要となる。

【委員】 私は元市職員であり、職員当時は2km以内通勤の場合、自転車通勤が推奨されていた。写生に利用している関川は、桜堤があり、つくば霞ヶ浦りんりんロードにつながる場所や休憩できる拠点もあるため、自転車利用に活かしてはどうか。

五輪堂橋付近の恋瀬川から見る筑波山もきれいである。

【委員】 自転車利用により自動車利用が減少すると、事故も減るはずである。警察も対応していきたい。

【委員】 小学校でふるさと学習を実施している。勤労の志士が恋瀬川の隅にある。史実に基づいた物語で設定してもらえると子どもの教育にも良い。つくば市では放置自転車を安く販売している。安く購入できると利用しやすい。

【委員】 普段、訪れない人が八郷に車を止め、自転車で周遊するようになると良い。そのうち皆さんと周遊コース等の話もできると良い。

【事務局】 皆さんから頂いた意見を踏まえ、庁内関係者会議で議論し、次回までに整理します。次回の開催は11月20日（火）を予定しています。

11月17日（土）に自転車利用を推進するためのシンポジウムを予定しています。駅前を通行止めとして、イベント等を開催する予定です。

(4) 閉 会

以上